

## ＝マネジメント契約の交渉開始＝

マネジメント契約の交渉ではハードネゴを覚悟していましたが、交渉はグアムだけでなくナウルでも行われました。ナウルではアロイ大蔵大臣が、「私だけは騙されないぞ」とも言いたげな鋭い視線で我々を出迎えてくれました。今あらためて当時の交渉場面を振り返ると、妥協を強いられたホテル名、契約期間、そしてテリトリー条項についての交渉が思い出深い。一方、我々もマネジメント料など主張すべきところは主張し、おおむねWIN・WINの結果を得たと自負しています。

## ＝大統領の執務姿＝

ナウルでのマネジメント契約条件交渉が一段落し、帰国前に大統領へお礼を述べるために深夜、大統領官邸に向かいました。着くとすぐに裏庭に案内されました。官邸スタッフの大きな身体の前に、執務中の大統領の姿が見える。それほど広くはない芝生敷きの庭に横長の事務机を持ち出し、両側に積まれた書類を次々に決済している。会議で会った時にこやかな大統領とは別人のような厳しい表情である。聞こえてくる物音は、大統領のそばの机で女性秘書が打つ規則的なタイプライターの音だけである。その風景は、人口わずか1万人足らずの小国とはいえ、やはり一国の元首が担っている責任の重さをひしひしと伝えていました。ただ一つ、大統領の足元に置かれた蚊取り線香だけがこの厳粛な風景に微笑ましいアクセントをつけていたのが今でもまぶたに焼き付いています。一瞬、米国のトルーマン大統領が、「“The BUCK STOPS here” 責任逃れはここまで」という銘板を大統領執務机の上に立てていたというエピソードが頭をよぎりました。

## ＝マネジメント契約の締結＝

マネジメント契約の正式締結は、沖縄のハーバービューホテルで行われました。しかしその土壇場まで契約書の細部にわたる最終の

詰めが連綿と続いていました。今ならメールという便利な通信手段もありますが、当時は沖縄の会議室でナウル側弁護士から次々に出てくる文言修正案を東京で待機しているANAホテルズ側弁護士事務所はその都度ファックスで連絡し、修正されたページが送られてくるのをじっとファックスの前で待つという消耗戦が丸3日間続きました。1983年5月31日にナウル大統領とANAホテルズ若狭社長との間で無事にマネジメント契約が調印されました。

1981年9月にグアムヒルトンで初めてナウルのプロジェクトチームと会って以来、1年半以上かかったこととなります。

以上

## ナウル共和国 (Republic of Nauru)

太平洋南西部に浮かぶ珊瑚礁のナウル島にある共和国。イギリス連邦加盟国。国土面積は21km<sup>2</sup>です。公用語は英語、ナウル語、人口(2011年調べ)9,322人。

### \*2月 例会卓話者予定\*

- 2月17日 佐世保市立総合病院  
院長 澄川 耕二 様
- 2月24日 陸上自衛隊西部方面混成団長兼  
相浦駐屯地司令  
杉本 嘉章 様

### \*西海学園高等学校インターアクトクラブ例会予定\*

日時／2月17日(水) 17:00～  
会場／西海学園高等学校 記念館 会議室

### \*長崎国際大学ローターアクトクラブ例会予定\*

日時／2月18日(木) 18:30(食事開始)～20:00  
会場／長崎国際大学 食堂

日時／2月27日(土) 10:00～ 役員交代式  
会場／長崎国際大学

\*西海学園IAC、長崎国際大学RACにご出席されますと、メイクアップにもなりますのでご活用ください。  
\*RACへご出席される方はお食事の要・不要の確認をいたしますので、事務局までお知らせください。

(今週の担当：上野 好章)

(カメラ担当：岡村 一郎)

## クラブ会報委員会

委員長 岡村 一郎  
副委員長 土井 弘志

委員 河原 忠徳・吉田 英樹・大神 吉史  
田口 恵介・上野 好章



# SASEBO WEEKLY

R.I. D.2740 JAPAN  
佐世保ロータリークラブ

会 長：田中丸善弥 幹 事：芹野 隆英  
事務所：佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323  
例会場：佐世保玉屋8階(毎週水曜日) TEL 0956-23-8181  
http://www.sasebo-rc.jp/ E-mail:src@circus.ocn.ne.jp

平成 28 年 2 月 3 日

第 3,200 回例会

NO 28

《本 日》 会員数 75 名 (出席免除会員 23 名) ・ 出席 58 名 ・ 免除者欠席 3 名 ・ 欠席 14 名 ・ ビジター 1 名 ・ 出席率 77.33 %

《前々回》 会員数 75 名 (出席免除会員 23 名) ・ 出席 59 名 ・ 免除者欠席 6 名 ・ 欠席 10 名 ・ メークアップ 10 名 ・ 修正出席率 100.00 %

## 会長挨拶

会長 田中丸善弥

皆さん今日は。2月3日は節分祭です。現在は立春の前日となっております。節分といえば豆まきです。室町時代の1447年の文献に記録があるようです。



立春前夜に家ごとに豆をまき、「鬼は外、福は内」と唱えたと記されています。そして、江戸時代には、春を迎える厄払いの行事として諸国に広まったり、体を豆でなでて厄をうつしたり、年齢の数だけ豆を食べたりする様になりました。

最近では恵方巻を食べるのが大ブームになっているようです。今年は南南東(えほう…歳徳神の住む方角、その年に吉となる方角)だそうです。

さて、いよいよ2月21日の創立記念日の内容も整ってまいりました。実行委員長の橘高克和さん、副委員長の中村徳裕さんのリーダーシップのもと、各委員会にて準備万端怠りなくすすめていただきますようお願いいたします。先週の山縣義道会員の卓話は、私達会員すべてにとり心すべきお話であり、これからの佐世保ロータリークラブの発展を皆さんとともに考える創立記念日にしなければと思います、有り難く拝聴しました。どうぞ、皆さんも宜しくご理解ご協力ください。これにて、本日の会長挨拶とさせていただきます。

本日は例会に先立ち行いました、第8回理事会の報告をいたします。

1. 長寿祝賀会の決算について
2. 2月・3月例会プログラムについて
3. 第9回理事会日程について…3月2日
4. 創立65周年記念式典について…2月21日  
(例会終了後打ち合わせ)

以上

## 例会記録

- 国歌「君が代」
- ロータリーソング「R-O-T-A-R-Y」
- 卓話者  
長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 教授 あんたく 安徳 かつのり 勝憲 様
- ビジター  
佐世保中央RC 松田 啓伸さん

## 幹事報告

幹事 芹野 隆英

1. 第2740地区ガバナーエレクト  
崎永 剛さん(長崎北RC)

2016-17年度  
ジョンF.ジャームRI会長エレクト  
テーマ発表  
「人類に奉仕するロータリー」

2. ロータリー日本財団  
理事長 千 玄室さん  
平成27年1月~12月末日までに寄付をされた方へ領収証送付

3. 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会  
理事長 小沢 一彦さん  
2015年1月～12月まで特別寄付をされた方へ  
領収証送付

4. 第2740地区ガバナー事務所  
①2740地区ホームページ更新のお知らせ  
ホームページアドレス <http://www.d2740.org/>  
②月信2月号の訂正のお知らせ  
P.10 地区主要行事予定表  
地区研修協議会 (ホテルニュー長崎)  
誤：4月10日(日) → 正：4月24日(日)

5. 第2740地区ガバナー 宮崎 清彰さん  
米山奨学委員長 本多 善彦さん  
2015学年度米山奨学生終了式開催のご案内  
日時／2016年3月20日(日)  
15：30 開会～19：00  
会場／唐津シーサイドホテル  
対象者／米山奨学生、カウンセラー

6. 西海学園高等学校 校長 森 由川 様  
卒業式のご案内  
日時／2016年2月26日(金)  
場所／記念体育館ホール

## 委員会報告

■創立65周年式典実行委員会  
副委員長 中村 徳裕  
2月21日(日)の創立式典日がいよいよ近づいてまいりました。例会終了後、打ち合わせを行いますので、各委員会の委員長、副委員長はご参加ください。



■青少年奉仕委員会 委員長 坂本 敏  
1月28日(木)、私と山口剛史委員長でローターアクト委員会に参加してきました。長崎国際大学食堂にて19:00より、幹事の堤君の卓話で、とても為になる話でした。本日インターアクトの例会も17:00よりあります。



■資金推進・財団・米山委員会  
委員長 前田 文智  
国際ロータリー第2740地区  
2015-2016年度 補助金セミナー  
日時／2016年1月31日(日)  
13:00～  
会場／唐津市相知交流文化センター  
佐世保RC出席者  
次年度幹事 松尾 文隆  
補助金委員長 山下 尚登  
資金推進・財団・米山委員長 前田 文智



内容は、最初、グローバル補助金としての奨学生候補1人のプレゼンと過去のグローバル補助金による奨学生であった若者の2人のプレゼンがありました。

元来、海外から日本に留学する若者に対しての奨学金の制度だけかと思っておりましたが、逆に日本人で、ロータリー財団への補助金の制度を利用して海外留学をする制度があることを初めて知りました。

いずれの若者も、世界に貢献する高い志を持っている話で、熱い情熱を感じました。又、我々ロータリークラブが世界に繋がる役に立っている団体である事を改めて、実感致しました。

その中で一人の若者が「ロータリー イズ ワールド オーバー」と言った言葉が非常に心に響きました。

その後は補助金についての歴史や制度利用についての説明が延々とありました。特に、各クラブごとに申請可能な、地区補助金については非常に申請自体が複雑な内容でしたが、地区のプロジェクトに対し、50%かつ20万円まで、財団から補助金として拠出される制度で、過去、当、佐世保クラブでも利用した事もあると聞きましたので、今後、再度、当クラブでも利用していくのも一つの手段かと思いました。皆様で何か希望の案件でもあれば宜しくお願い致します。

## ニコニコボックス

親睦活動委員会 西村 一芳  
橋高 克和さん、山縣 義道さん  
中村 徳裕さん、福田 金治さん  
玉野 哲雄さん

長崎国際大学安徳先生の卓話に期待して。

ニコニコボックス 本日合計 5,000 円  
累計 581,000 円

## 卓 話

### 『太平洋上に星を求めて ～ナウル共和国大統領との6年間～』

長崎国際大学 人間社会学部  
国際観光学科 教授

あんたく かつのり  
安徳 勝憲 様



35年ほど前、私は全日空ホテルズ海外事業開発スタッフとしてグアムのリゾートホテルプロジェクトを担当しました。ホテルオーナーがナウル共和国であったため、同国大統領ハマー・デロバート(1922-1992)と6年間にわたって折衝するという貴重な経験をしました。その間には、意見の対立や、資金計画の行き詰まりなどもありましたが、その都度、大統領に鼓舞されながら予定通りのスケジュールで開業させることが出来ました。ナウル共和国は人口1万人足らずの小さな国ですが、大統領の国家最高責任者としてのリーダーシップ、視野の広さ、人間的な魅力など、深く心を打たれた6年間でした。今日は、その一端をお話することで、グローバル化の荒波に立ち向かっておられる経営者の皆様にとって、なにかひとつでもヒントになれば幸いです。なお、以下の文章は、プロジェクトの端緒から、マネジメント契約の締結までの経緯(約1年半)について少し詳しく記しています。

#### プロローグ

私はグアム Hilton の会議室でナウル共和国建国の父であるハマー・デロバート大統領との会議に臨席し、ほとんど金縛りの状態でした。大統領の堂々たる体躯から、やはり一国を代表するステーツマンとしての風格がにじみ出ていました。今振り返ると、この会議を契機としてナウル共和国の国家投資プロジェクトである「グアム・パシフィックスターホテル」が本格的に始動し、約6年後に3番目の海外ANAホテルズとして開業しました。

#### ＝ホテルプロジェクトの始動＝

1968年、ナウルは人口わずか4,000人のイギリス連邦共和国として独立しました。独立後は、リン鉱石の輸出によって膨大な貿易黒字を生み出すようになりました。しかし初代大統領ハマー・デロバートは将来のリン鉱石枯渇にそなえ、これまでリン鉱石の輸出で蓄積した資金で海外投資を積極的に行い、将来はその投資利益で国家財政を賄っていくという国家戦略を着々と進めていました。新しい投資先として、ハワイ、サイパンに続いて日本人の観光客を中心として年率10%台の伸びを示していた米領のグアムでのホテル建設が検討されていたのです。

グアム Hilton の会議室でナウル側スタッフから、まだホテル用地を決めかねていることを知らされました。どうやら3つの候補地があるらしい。そこで我々はこの3つの候補地について小型飛行機を使っての調査を行い、ナウル側から感謝されました。

#### ＝フィジビリティ・スタディ(F/S)レポート＝

次のグアム Hilton での会議の冒頭、「フィジビリティ・スタディ(F/S)レポートを提出してもらいたい」との要請を受けました。1982年1月、グアム Hilton にナウル大統領を迎え、我々からのプレゼンテーションが始まりました。会議の中で最も議論が白熱したのは、大統領の横に座っていたオーストラリア人コンサルタントが「今回ANAホテルズが出してきた収支予測では投資利益率が低すぎる。」と言い切った時でした。一瞬ここで会談は終了かと覚悟をしたが、大統領は「ANAホテルズとしては彼の指摘をどう思うのか」と尋ねてきた。私は発言を求め、「たしかに我々の収支予測はあなた方の期待を下回っているかもしれない。しかしナウル共和国は単に投資効率だけでなく、アメリカとの外交やその他さまざまな要素を考えてグアムでのホテル投資を検討していると理解している。我々はホテルの専門家としてグアムのマーケットを調査し、これくらいの利益を想定するのが妥当であろうと言っているのだ。」言い終わったとき、少し言いすぎたかもしれないという思いがよぎったが、会議1ヵ月後に我々のF/Sはナウル政府の承認を得ました。